

子豚の人工哺育試験

誌名	千葉県畜産センター研究報告 = Bulletin of the Chiba Prefectural Livestock Experiment Station
ISSN	03865673
巻/号	8
掲載ページ	p. 101-102
発行年月	1984年10月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



子豚の人工哺育試験

松井 啓・宮原 強・加藤良忠

Studies on Artificial Feeding of Piglets

Hiraku MATSUI, Tsuyoshi MIYAHARA and Yoshitada KATO

目 的

子豚の人工哺育技術は、繁殖成績（過剰産子、未熟子母豚の事故、無乳症等への対応）の向上のほか、豚病、特に予防ワクチン等の開発が遅れている豚の慢性疾病等の清浄化対策等に非常に有効な技術であると思われる。そこで、一般養豚農家が簡単に利用出来る実用的な人工哺育技術を確立するために、子豚の超早期離乳による方法および代用初乳として、牛発酵初乳を利用した方法等について検討するほか今回は、特に子豚の育成率向上をねらいとして、各種の哺育方法について検討したので、その概要を報告する。

材料および方法

1. 超早期離乳による方法

供試豚は、当场で生産された子豚、計52頭を用いた。試験区分および方法は、0日哺乳区（無初乳区）、1日哺乳区（1日初乳を飲ませた後離乳したもの）、3日哺乳区（同じく3日間初乳を飲ませたもの）に区分した。哺育器は、市販のものを用いて、各区とも2週齢まで哺育器内で哺育後、一般豚舎へ移動して飼養した。

人工乳としては、市販のもので液状人工乳およびマッ

シュを用いた。2週齢以降は、人工乳マッシュの不断給餌方式にした。その他、当场の慣行により実施した。

2. 牛発酵初乳による方法

供試子豚は当场で生産された出生直後（全く母豚の初乳を与えてないもの）の子豚、計51頭を用いた。

試験区分および方法は、牛発酵初乳を1日給与した1日給与区、同じく2日、3日、10日給与区とし、それぞれ2組づつ設定（但し10日給与区を除く）して哺育後の飼育形態を一般豚舎と清浄豚舎に分けて飼育した。その他は超早期離乳による方法とほぼ同様な方法で実施した。

結果および考察

育成率および発育成績は、表1に示すとおりである。超早期離乳による方法では、母豚の初乳の給与が必須条件であるように思われる。母豚の初乳の代りに牛発酵初乳の給与は非常に有効な方法であった。また人工哺育豚の完育率を向上させるためには、哺育器から出した後の飼育環境が非常に重要な要因になるように思われた。すなわち清浄な豚舎（房）で、一般豚と隔離飼育することが必要であるように思われる。

表1 育成率および発育成績

試 験 区 分	供 試 頭 数	育 成 率				完育率 (60kg)	5週齢 体 重	哺育後の飼 育 形 態	
		1週齢	2週齢	3週齢	5週齢				
超早期離乳 による方法	0日哺乳区	14	57.1%	21.4%	14.3%	14.3%	0%	4.6 kg	} 一般豚舎
	1日 "	18	100	100	100	100	-	8.0	
	3日 "	20	100	100	100	90	-	7.6	
牛発酵初乳 による方法	1日給与区	7	100	100	100	100	57.1	8.4	一般豚舎
		6	100	100	100	100	83.3	8.5	清浄豚舎
	2日給与区	6	100	100	100	100	83.3	8.5	一般豚舎
		7	100	100	100	100	100	8.5	清浄豚舎
	3日給与区	7	100	100	100	100	85.7	8.4	一般豚舎
		6	100	100	100	100	100	8.9	清浄豚舎
10日給与区	12	100	100	100	100	75	9.8	一般豚舎	